

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600144
法人名	社会福祉法人南之郷
事業所名	認知症高齢者グループホーム南之郷
所在地	鹿児島県曾於市末吉町南之郷8130番地1 (電話) 0986-78-1107
自己評価作成日	平成28年12月2日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人南之郷は平成26年4月7日に開所した施設です。農業生産法人と連携し、利用者様が今までの生活の中で行ってきた農業(ネギ・シソなどの選定)を楽しみに行われています。環境は中学校跡地でもあり、南側には市が管理している広いグラウンド、その周りにはイチョウや桜などの木に囲まれ、伸びやかな景色となっております。また、ホーム周辺は遊歩道となっており歩きやすく、車椅子でも外での散歩が楽しめます。花壇もあり季節ごとの花や野菜などご利用者様と一緒に手入れを行い成長を楽しみながら育てています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○当ホームは、大自然に囲まれ四季折々に人々の暮らしを肌で感じられる環境にあり、農業と福祉のコラボレーションをコンセプトに、採れたて野菜やきのこ、米など地産地消の食材を使って地元の方々と農業でつながり協力する体制が構築されている。また、農業生産法人との連携により自立支援重視の介護サービスを導入し認知症や身体機能低下の症状緩和を図っている。

○以前は町の中学校であった建造物を改築し、地域密着型特別養護老人ホーム、グループホームへと変貌させ要介護者の共同生活の場を提供している。隣接した老人ホームとの交流が日常的にあり兄妹が行き来し絆を深めている方もいれば、毎月、いきいきサロンが開催され利用者や地域住民との交流の場になっており、気軽に訪れることができるよう取り組んでいる。

○主治医は、入所前からのかかりつけ医であるが協力医療機関との連携も密に取れており重度化や看取りについても柔軟に取り組んでいる。職員は看護職が多くオンコール体制があり、急変時や緊急時の対応も迅速におこなわれ適切な医療が受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と連携も取れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念を掲示し、朝礼で唱和することで、南之郷全体で共有し実践に繋げている。	理念は、法人職員とともに共有されており、ホームや会議室などに掲示されパンフレットに掲載し、地域の方々にもホームの理念を紹介している。地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流の場として、月1回いきいきサロンを開催している。また、夏祭りに地域の方も参加していただき、商店にも露店の食べ物などの協力を頂いた。	代表者は、地域で農業を営み福祉事業とのコラボを展開しており、地域と密接に繋がり日頃から相互交流ができています。法人施設、ホームの建造物は中学校を改築しており、地域の方にも馴染みがあり気軽に来訪されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方との交流の場として、月1回いきいきサロンを開催している。毎月色々な内容を行い、利用者様・職員との交流を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催している。入所者・職員状況・事故に関する事、行事内容の報告を行い、様々な意見を頂いている。会議で出た意見も取り入れサービス向上に活かしている。	管理者は、毎回家族全員に参加を呼びかけなるべく多くの家族が会議に参加できるよう取り組んでいる。サービスの取り組み状況やヒヤリハット事例の報告などを行い、メンバーからの意見、要望を参考にしてサービス向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議以外でも定期的に、市の担当者に現場・運営の状況について報告・相談を行っている。	担当者とは、直接面談し報告・相談しアドバイスを受けることが多い。職員は、市主催の研修会へ積極的に参加したり、代表者は年2回多職種連携にて地域の独居高齢者支援や、セキュリティ対策を検討するメンバーとして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、いつでも出入りできるように施錠はしていない。身体拘束委員会を中心に勉強会を行っている。	身体拘束や虐待防止については、法人の委員会があり、法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ふいに外に出て行かれる方がいるが、散歩をしたり鍵をかけず自然な見守りにて安全な暮らしを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に勉強会を行い、全職員お互い虐待と思われる行為はないか常に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の研修に参加し学ぶ機会あった。勉強会を行い全職員で活用している。成年後見制度については今後、研修会に参加していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書・利用契約書についてご家族様・利用者様に説明を行い、同意を得て、署名・捺印を頂き、契約が締結している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で質問・要望などがある。又、面会時に生活の様子などを話す中から意見・要望を聞いている。</p>	<p>今年9月に家族向けのアンケート調査を実施し、集計の結果は利用者や家族に報告し出された意見は、ケアに活かしている。代表者は、職員がより良いケアができるよう改善策を検討しハード面についても迅速に対応している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、全体会議を開催している。職員からの意見・提案は、代表者や管理者で検討し、出来る限り反映できるよう努めている。</p>	<p>家族への報告や説明は、管理者に窓口を一本化し対応に努めている。職員は自己評価を実施、管理者が個別に面談し、意見や提案を聞くようにしている。職員向け新聞「そのまんま新聞」を発行し、委員会活動や行事計画役割分担、人事異動報告、また、余暇活動への参加を呼びかけるなど職員の福利厚生にも力を入れている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>休憩所やシャワールームなど設備している。又、希望する休みや有給は出来る限り取れるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人ひとりの力量に合った外部研修参加の声掛けを行っている。又、自主的に研修会に参加する職員もいる。研修委員会を中心に月に1～2回自施設での勉強会を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>「曾於市認知症ホームの会」に参加し、他事業所との交流を行い、意見交換の中で自施設に取り入れられそうな事柄などの情報を集め活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前面談を行い、ご本人様の要望など傾聴している。入居後は、密に声掛けを行い、他利用者との関係などに配慮しながら信頼関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前面談時に、ご家族様からの相談・要望などにも耳を傾け信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人様の状態を見ながら、ご家族様とも相談し、介護支援専門員・看護師・介護職も含めて話し合い必要なケア内容を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>「人生の大先輩」であるという事を忘れずに、日々の生活を共にする関係を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には毎日の様子など伝え、居室でゆっくりと話ができる環境を作っている。又、定期的に電話連絡をし、ご家族様との関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の多くが地元の方で、近所の方の訪問がある。又、隣接する同法人施設の利用者様も地元の方が多く訪問を行っている。馴染みの場所なども、ご家族様の協力を頂き途切れないように努力している。	地域いきいきサロン活動は、毎月会議室にて地域の方々と交流している。徒歩で帰宅できる利用者もおられ家族と帰宅し自宅で過ごす方がおられたり、知人、友人が遊びに来ている。隣接の老人ホームに妹さんが入所しておられ兄妹との面会が絆を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格等に配慮し、職員が間に入り利用者様同士がトラブルなく過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況に応じて、ご本人様・ご家族様の相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情・行動・会話や、ご家族様からの情報により希望・意向の把握が出来るように努めている。	重度の認知症があり、意志疎通が困難な方がおられるが、家族の情報や職員間で情報交換をおこない本人の思いを共有するよう努めている。職員は、本人本位にチームケアにて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や、ご家族様から情報を集め、今までの生活歴・生活環境・これまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、気分等の把握を行ない、無理強いせず、ご本人様のペースを尊重し、ゆったりと過ごしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月グループホーム会議の中で、利用者様の状態について意見や提案などの検討を行い、状況にあった介護計画を作成している。また、各利用者様の担当職員が月1回モニタリングを行っている。	毎月、会議を開催しモニタリングの結果を話し合い、見直しについても柔軟に取り組んでいる。計画は、インフォーマルサービスを反映し、本人や家族の意向に沿った現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に毎日の様子や気づき等を記入し、会議や日々の業務の中で情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の意向などの変化があった場合は、職員との話し合いを持ち、出来る限りのサービス提供ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの訪問はないが、地域の小学生との交流会を行ったり、学習発表会の見学を行い交流を持つ機会を増やしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に利用していた病院をそのまま継続して利用してもらっているが、ご家族様・利用者様の状況により、入所後に協力医療機関への変更も行っている。	隣接の老人ホーム職員を始め代表者など看護職が多いため、本人、家族の安心につながっている。薬剤師との連携もあり、往診や協力医療機関との医療連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が1名おり、健康管理を行っている。又、同法人施設にも看護師がおり状態変化や気づき等は、すぐに報告・相談し対応している。夜間はオンコール体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、ご家族様や医療関係者と連絡を密にとり、状態把握に努めている。ご家族様と相談しながら、早期退院に向けて体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合における指針を十分に説明して同意を得ている。終末期の支援については、ご家族様・ご本人様の思いを尊重し、全職員で情報を共有し支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の指針」があり、看護体制が構築されているため、本人、家族、主治医、関係者間で十分に話し合い看取りにも柔軟に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職・事故防止委員会を中心に勉強会を行っている。AEDの講習も行っている。終末期の利用者様もいる為、急変時の対応など定期的に確認を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災時の避難訓練を消防署指導の元、年2回実施している。地域の消防団にも協力依頼している。夜間の訓練時は、地域の方に近隣協力隊として参加して頂いている。地震・水害時の訓練も行っていきたい。</p>	<p>地域の協力体制があり、年2回消防署立ち合いの元、避難訓練を実施している。コンセントなどは、掃除の時確認するよう努めている。隣接の老人ホームが地域のシェルター機能の役割を担っており、利用者や家族から安心感を得ている。停電対策にも万全を期している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に合わせた声かけの内容や対応に気を付けている。排泄時や更衣時もプライバシーに配慮し支援している。	利用者は、さんづけで呼ぶなど失礼のないよう声かけしている。また、面会簿も個人情報に触れないよう配慮されている。法人との合同研修会に参加し言葉使いやマナーに配慮している。入浴や排泄、更衣などの身体介護を提供する際は、特にプライバシーに配慮したケアを提供するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とゆったりと話す時間があり、思いや希望を言いやすい環境を作るよう努めている。表情や行動からも利用者様の希望を引き出せる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に生活しているが、生活の中で大まかな時間配分はある。入浴時間は職員の都合上日中に行っているが、無理強いはしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	地域の方に訪問して頂き、定期的に散髪を行っている。入浴時等、利用者様と一緒に服を選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後のテーブル拭きや食器の片づけ等、出来る方には手伝ってもらっている。食事介助を必要とする利用者様がおおり、職員と一緒に食事をするのが難しい現状である。	法人の管理栄養士が献立表を作成し、厨房で調理しホームでは、職員が食後、食器洗いをしている。利用者の中には、料理の下ごしらえ、テーブル拭き、お盆拭きを手伝ったり、おやつ作りに参加される方もおられる。菜園や畑で採れる旬の野菜をふんだんに使い食の自立支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人の管理栄養士が献立を作成し、バランスのとれた食事内容である。水分量は毎日確認を行い、お茶を好まない方にはほかの飲み物での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、口腔内の清潔保持に努めている。毎食後出来ない方も、1日1回は出来るように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、誘導・支援を行っている。また、行動などからも排泄サインを見逃さずに、失禁なく排泄出来る様努めている。	排泄チェック表を活用し、排泄のリズムを把握し、排泄の自立支援を積極的におこない重度の方は二人介助にて排泄ができるよう支援したり、おむつ代の負担軽減を図っている。代表者は、職員全員に腰椎ベルトを着用させるなど腰痛予防にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分を摂って頂けるように配慮している。毎朝、牛乳又はヤクルトを提供している。運動は毎日ラジオ体操を行い、園庭散歩を行っている。また、利用者様にあわせて腹部マッサージを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や希望もあるが、週2回入浴できるように支援している。声掛けにより入浴できない場合は無理強いはしていない。夜間は行っていない。	入浴は、午前、午後に分けて入浴している。異性介助にも配慮しており、気持ちよく入浴していただけるよう声かけに工夫を凝らしチームケアにて入浴支援している。また、清拭や足浴なども取り入れ保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでもご自分の部屋でゆっくりと過ごすことができる。夜間も眠れない時は、話を傾聴し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内服している薬の目的を把握し、確実に服薬してもらうよう工夫している。状態変化時には、主治医に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の生活環境や日課などを把握し、一人一人の出来ることを見つけ、役割や楽しみ、気分転換になるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが、園外散歩やお茶会を行っている。また、ご家族様の協力をもらい外出を行っている。地域の行事などへの参加を増やしていき、外出の機会を作るよう支援していきたい。	ホーム周囲は、車いす介助でも散歩ができる環境があり、南側の校庭跡では、地域の方々がグランドゴルフを楽しまれている。花壇や菜園があり、外気浴をしながら日常的に自然に触れている。初詣に出かけたり、家族との外出を楽しまれる方がおられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少額のお金を持っている利用者様はいるが、使用する機会が少ない。お金を所持している事で安心感につながっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話・手紙などの支援は行えていない。年賀状を書いて頂くことを計画している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様のほとんどが食堂兼居間で過ごすことが多く、混乱やストレスの原因ともなる為、テーブルや場所などの移動は殆ど行わない様になっている。温度・湿度などにも配慮し、換気にも努めている。季節に合わせた歌や、利用者様と一緒に作った作品を掲示している。</p>	<p>午前中は、リビングダイニングで過ごす方が多く共有スペースは、居室に囲まれ、窓越しに戸外が望めるようベンチが設置してあったり、トイレ上棚に災害時のライト付きヘルメットが完備してある。また、壁には法人のシンボルマークがちぎり絵で掲示されており、クリスマスを意識した展示があるなど家庭的な空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂兼居間が共有空間となっている。気の合った利用者様同士で笑顔で話をされていることも多い。一人で過ごしたい時には居室で過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド・タンスは備え付けである。毛布や夏用布団は家で使われていた物を使用されている利用者様が多い。認知症の症状にもより、設置するのが難しい利用者様もいる。</p>	<p>家族写真やタンス、寝具などの使い慣れた物を持ち込んでいる。各居室にソリューションウォーター入り加湿器を設置し感染症対策をしている。また、滑落防止のためベッドサイドに専用マットレスを準備している方がおられる。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者様をご自分で目的の場所に行きやすいように、居室には名前の表示・トイレの入り口にも表札をつけている。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない